



2025年

4月第3・4週の主日礼拝説教要約

・4月20日 ルカ福音書 24:36-49.

『 焼き魚とキリスト 』（復活祭）

・4月27日 ヨハネ福音書 20:24-29.

『 平安あれ 』

衣笠病院教会 牧師 宮原晃一郎

《 焼き魚とキリスト 》 (復活祭)

マタイ福音書を除き、その他のマルコ・ルカ・ヨハネ福音書によると、復活の日の「その日…の夕方(ヨハネ福音書20:19a)」に、「11人が食事の席に着いているとき(マルコ福音書16:14a)」に、

イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和(平安)があるように」と言われた。彼らは恐れおののき、霊を見ているのだと思った。…彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっていると、イエスは、「ここに何か食べ物があるか」と言われた。そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。(ルカ福音書24:36…43)

復活の日の夕刻に、イエスは空腹だったことがわかります。“空腹”といえば、思い出すのは、かつてヨルダン川でヨハネのバプテスマを受けたイエスは、直後に荒れ野に連れ出され、サタンの誘惑を受けます。40日間の断食を強いられ、「…その期間が終わると空腹を覚えられた。(ルカ福音書4:2b)」とあります。言葉が肉となったメシア・キリストとは、空腹を覚える神の独り子でもありました。死んで三日目によみがえり、空腹を覚え、三日ぶりに食事でありついたイエスこそ、ユダヤ人たちが信じたはずの、嘘偽りなき“生ける神”の真実の姿でした。

“主”であり、また“師”でもあったナザレのイエスの受難からは距離を置き、封鎖された隠れ家に潜んでいた弟子たちの夕食の時間に、再び顕現したキリストから逃亡する弟子は、もういません。神と人との正しい関係は、和解の食事をもって、始まろうとしています。

後日、ガリラヤ湖の湖畔で再開する彼らの朝食の世話をしたのも、復活のイエス・キリストでした。

さあ、来て、朝の食事をしなさい。(ヨハネ福音書21:12a)

弟子たちが「今捕った魚を何匹か(同21:10)」、焼いたイエスが、

彼らを岸辺の食卓に誘います。このようにイエス・キリストの復活と焼き魚とは、切っても切れない関係にありました。

彼らの空腹は、神と人とを和解の食卓へと導きました。ただ、空腹は、人間を戦争という悪しき生存競争に駆り立ててしまうことも、忘れてはなりません。

《 平安あれ 》

イエスの弟子の一人であるトマスという人物に関して雄弁に語る人はいません。彼はとくに目立った弟子ではありませんでした。4番目の福音書の殆ど最後になって、初めて彼の“特異な”行動の報告が認められるのです。この個所は、年に一回読むか、割愛するかで、トマスの名前が教会では聞かれない復活節のケースも出てきます。

きっかけは、イエス・キリストの復活の日に、なぜかトマスだけが席を外しており、その“目撃者”たりえなかったことから、3日で終わるはずの弟子たちの敬弔の日々を、トマス一人だけがその後一週間も引きずることとなるのです。もしも、彼が席を外していなければ、不幸にして彼の存在は永久に希薄なものとなっていたはずですから、この“世紀の入れ違い”をもって、彼の名は永久にキリスト者の胸に刻まれることになるのです。

ただ、使徒言行録の1章には、

イエスは苦難を受けた後、ご自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、40日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。そして、食事を共にして…。(1:3-40)

とあり、トマスが復活のイエスと出会う機会は、もしかしたら他にもあったかもしれないのです。

そうだとすると、トマスにとって、この空白の期間は、もしかしたら彼が普通のユダヤ人に復帰できるラストチャンスだったのかもしれない。

彼が皆と共同歩調をとっていなかった理由として考えられることがあり

ます。もともと目立たなかったこの人が、弟子たちの潜伏生活を維持するための買い出し係を買って出っていたのかもしれないのです。今日のコロナのマスク生活と同様に、何かで口を隠せばもう、何処の誰だか分からなくなります。もしかしたらこの一週間、仲間のために隠れ家を維持しつつ、行き来して外の風景にも一番、親しんだのは彼だったのかもしれませんが。

過越祭も終わり、ユダヤ人たちの日常は元にもどりました。当局者以外は、あの“事件”のことを口にする者もおらず、社会は平穏を取り戻しています。思えば、ナザレのイエスと出会う以前の自分にも、彼らと同じ普通の生活を営む自由があったのです。もう、復活のイエスと“出会った”などという仲間の戯言から解放されて、隠れ家に戻らず、“潜伏生活からの逃走”を図るチャンスが来ているのかもしれませんが。今がその時だ（！）との誘惑がトマスの脳裏に去来しています。買い物を済ませ、送り届けた後が決断の時だと考えたかどうかはいざ知らず、彼はひとまず仲間の潜伏先の隠れ家に戻ります。さあ（最後の？）食事の支度です、と、その時に復活のイエスが、封鎖したはずの部屋の只中に現れたのです、

「あなたがたに平和（平安）があるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。あなたの手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「私の主、私の神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「私を見たから信じたのか。見ないで信じる人は、幸いである。」

（ヨハネ福音書 20：26b-29）